

■活動レポート 岩手県立博物館・岩手県立埋蔵文化財センター合同展

いわての宝をみよう ～自然・文化、藤沢の縄文～

平成21年11月18日(水)～11月21日(土) 藤沢町文化交流センター

平成19年度まで、盛岡市から遠隔の地で実施された「岩手県立博物館移動展」は、昨年度より埋蔵文化財センターとの合同開催『岩手県立博物館・岩手県立埋蔵文化財センター合同展』として拡大、発展を遂げました。

合同展としたことで、埋蔵文化財センターの調査による遺物も同じ場所で観覧できるようになったのです。

県博における地質・生物・民俗・歴史・考古の5部門からまんべんなく貴重な文化財を展示（考古部門は埋蔵文化財展と共同展示）、多くの来場者から喜びの声が聞こえました。「こっただいいものの展示、ほんにありがでねえ」とか「まだ来年もやってけろ」など、会場は熱気につつまれました。来場者の滞留時間が長く、な

かには4時間近くも熱心に展示品に見入り解説文を読み込んでいる人も。最終日の展示解説会には60人以上が殺到。3回に分けての解説会となりました。



各部門の目玉を挙げてみましょう。地質＝自然金－石英脈（山金）・紫雲大理石。生物＝イヌワシ幼鳥の剥製・クロシジミの標本。民俗＝田山曆（天明3年・県指定）・「百鬼夜行図」。歴史＝花菖蒲に



蝶図罈（銘盛岡住橋孝家造・県指定）・紺紙金銀字交書一切経（平安時代）。

展示品は数にして75点。計466名の来場者の方々にはご満足いただけたのではないのでしょうか。

来年度以降も、より見やすくより分かりやすい展示を心がけ、会場周辺の地域の方々に喜んでいただけるよう工夫をかさねていきたいと思えます。

（学芸調査員 熊谷道仁）

■活動レポート 伝統芸能鑑賞会

春を呼ぶ小軽米えんぶり

平成22年1月11日(月祝) 11:00～ 玄関前レンガ広場 13:30～ 民家（南部曲がり屋・旧佐々木家住宅）

伝統芸能鑑賞会は県内各地に伝えられている民俗芸能を博物館内で実演してもらうものです。博物館では、民俗芸能はどうしても映像による展示になってしまいます。実際に見学にでかけようと思っても、祭日や場所の関係であきらめている方も多いのではないのでしょうか。

今回のテーマは「えんぶり」です。えんぶりは青森県八戸市が有名ですが、岩手県にも県北地方を中心にえんぶりがあります。その中から九戸郡軽米町の小軽米えんぶり保存会にお願いして、博物館の屋外広場と民家で実演してもらいました。

小軽米えんぶりは、明治時代に八戸から伝えられたといわれています。現在は巡業することはなくなりましたが、神社

の祭典や芸能発表会などで披露しています。小学生・中学生も保存会に参加して、えんぶりを伝承しています。

えんぶりは小正月の予祝芸能です。独特の烏帽子を依代（よりしろ）として田の神を迎え、豊作を祈願するものです。えんぶりという名前も農具の「えぶり」からおこったといわれています。

演目は「摺り込み」「中摺り」「摺り出し」の3つが基本で、一連の農作業を模しています。この合間に「三番叟」「松の舞」「伊勢音頭」「恵比寿舞」「田植え万歳」「田植え踊り」などの余興的な出し物が行われます。



今回の催しは、1月という極寒の時期でしたが、屋外で実施しました。なるべく、本来の雰囲気味わっていただくかったからです。寒いものの、薄日のさす穏やかな天気でした。曲がり屋の座敷から見るえんぶりはまた格別でした。

（専門学芸調査員 瀬川 修）